

# 札幌市立 あつべつきた幼稚園

〒004-0073

厚別区厚別北3条3丁目15番3号

## 【厚別北小学校・本園・札幌あおば幼稚園との連携】

幼稚園と小学校で連携推進を図るための関係を作り、互いの教育的意図に基づいた継続的な交流活動などを計画して事前事後の教師の打合せや振り返りを行い、それぞれの育ちの情報交換をしている。

## 【全体の計画】

- ・施設の交流（プール、グラウンド、雪山など）
- ・幼児と児童の交流（幼稚園にて2回、小学校にて4回）
- ・異校種教師間の交流（教育活動を通じての交流・研究会・授業参観等での交流）

## 【幼児と児童との交流のねらい】

- ・幼児：同じ地域に住む小学生や小学校に親しみや憧れの気持ちをもったり、就学することに期待や安心感をもったりする。
- ・児童：総合学習として幼児との交流を通じて相手の立場になって活動を考えたり、自分の力を十分に発揮したりする。



<事前に園児の遊びを観察>

## 【交流の実際】

### ① 5年生の事前観察（6/15）幼稚園に来園

お祭りごっこを楽しむ幼児の遊びにお客さんになるなどして触れ合った。

### ② 第1回グループ交流（7/5）小学校へ

7つのグループに分かれ、5年生が計画した鬼ごっこやランドセル体験、ハンカチ落とし、だるまさんが転んだなどで遊ぶ。幼児は5年生の優しい関わりや楽しい遊びにより5年生に安心感をもった。

### ③ 第2回グループ交流（8/24）小学校へ 前回と同じグループ

前回と同じグループで行ったことにより、幼児も5年生も顔や名前を覚えており、小学校での再会を喜んでいた。グループごとの遊びの中で幼児は前回より安心して自分を出しており小学生へのスキンシップも増えていた。



<5年生が考えてくれたゲームを楽しみました>

### ④ 学習発表会に招待され観覧（11/16）

幼児は2回の交流により親しみのある5年生から、一人一人の名前やメッセージの入った招待状をもらい嬉しい気持ちで出掛け、興味をもって観覧していた。

## 【成果】

- ・幼児は小学生との交流により就学への安心感をもつことができた。児童は、課題解決しながら次の活動を考えたり、幼児に関わったりするようになり、学習発表会では、自分たちを慕う幼児のためにと自分の力を発揮する姿が見られ、当日の幼児の喜ぶ反応から自信をもつなどの育ちにつながったとこのことで、交流による教育的意義をもちながら連携することができた。



<心を動かしながら発表を見ました>

## 【考察】

- ・必要な教育活動として幼児と児童の交流が互いの教育課程に位置付いており、その接点から教師間の交流の機会をもつことができている。互惠性のある連携により、それぞれの育ちを伝え合いながら、今後も子どもの発達や学びの連続性を捉えられるような意見交流を行うなど連携を深めていきたい。

# 大藤学園 認定こども園もみじ台幼稚園

〒004-0014

厚別区もみじ台北5丁目6-1

## 【もみじの丘小学校との連携】

- ・ 1回目の交流9月28日 ～5年生が来園～  
年長児のクラスで“爆弾ゲーム・だるまさんがころんだ・ハンカチ落とし”のゲームを行う。
- ・ 2回目の交流1月25日 ～年長組小学校へ～  
校庭で“雪遊び(的当てゲーム・チューブ滑り等)”を行う。



的当てゲームの様子

## 【成果】

- ・ 5年生の生徒が「社長って呼んでください」と自己紹介のときに笑いを取って場を和ませてくれたり、困っている園児に優しく声を掛けてくれるなど、頼れる先輩像を見せてくれたことで“小学校には優しい先輩、頼もしい先輩がたくさんいる”と、年長児の中で安心感が芽生え、就学に向けて一層期待が高まっていた。
- ・ 2回目の雪遊びの時には、小学校へ行くという期待感もあり訪問前から楽しみにしていた。5年生を夢中で追い掛け回し、手加減なしに雪玉をぶつけている姿、おんぶされ笑顔で遊んでいる姿など、園児と5年生が打ち解けて遊んでいる姿はとても微笑ましく、5年生が園児を思いやり園児は5年生を頼りにする信頼関係が見られた。

## 【考察】

- ・ 1回目、2回目とも5年生に交流の企画や当日の進行など全てを取り仕切っていただいた。各自の役割もしっかり決まっており、遊びの中でも随所に配慮が見られ安心して遊ぶことができた。また交流させていただいた5年生の中には卒園児や年長児の兄弟もいたので、卒園後の成長も見ることができ立派な姿に感動した。
- ・ 昨年度、“小学校の校庭をお借りしてそり遊びをささせていただければ”という希望を取り入れてくださり、念願叶って今年度は雪遊びを企画していただきました。校庭の広さや雪山の大きさを知ったり、園にはないチューブ滑りができたり園とは違う環境の中で体を使った楽しい体験は園児にとっても職員にとっても良い学びの機会となった。

## 【改善点】

- ・ 小学校との交流について、保護者にはクラスだよりでお知らせしているが報告のみになっているため交流の意図や成果について効果的な発信を考えたい。



たくさん遊んでもらいました！



「持って帰る！」と言い張るので  
園に持ち帰った色付の雪玉たち。

# 学校法人 北邦学園 認定こども園 いちい幼稚園・保育園

〒004-0013

厚別区もみじ台西5丁目3-1

## 【もみじの丘小学校との連携】

・例年通り、もみじの丘小学校より交流会の機会をいただき、本園の年長児と小学校5年生とでの交流の場を年間で2回設けた。

・9月末には5年生が園に訪れ、自己紹介の後ゲームの進行を務めた。園児たちは、5年生が来ることを心待ちにしていたことで、事前に考えてきた5年生の遊びに積極的に参加し、小学生とたくさん触れ合いながら、楽しんでいた。



アブラハム・自由遊びなどを  
園で行なった様子

・1月には園児が小学校に訪れて、校庭にて雪遊びを行った。他園の園児も来ており、各園ごとに5年生もグループで分かれ、それぞれコーナーごとに遊びを楽しんだ。5年生が的を持って逃げる的あてや、米袋のそり滑りなど、様々なゲームを行うことで、積極的に遊びに夢中になって楽しんでいた。前回触れ合っていたことでこの日を楽しみにしていたことや、関わりよりも雪遊びを楽しめる喜びから緊張する様子もほとんどなかった。

## 【成果】

- ・実際に小学生と関わることで、イメージだけだと不安だった進学に対して期待感をもつような言葉が多くなった。
- ・一緒に遊ぶことを楽しむだけでなく、なぜ5年生と関わるのかということを理解することで、自分たちが入学した時に一番お世話をしてくれるお兄さん・お姉さんという意識をもつことができ、進学に向けた安心感や期待感へとつながった。
- ・連携の時から、子どもたちに伝えている内容や当日の予定スケジュールなどを送っていただきながら連携をとれたので、園側も小学生の子どもたちがどこまで頑張ってくれるのかということ把握しながら、見守ることができ良かった。

## 【考察】

- ・全員が同じ進学先ではないが、親しみのある自分のクラスの友達と一緒に過ごすことで、自分らしく楽しめたり、今後への期待感へと大きくつながった。
- ・毎年2回行っているが、今回は校内を見ることができなかつたため、3回行って良かったのではと感じた。



小学校で雪遊びをした時の様子

# 認定こども園 新さっぽろ幼稚園・保育園

〒004-0032

厚別区上野幌2条3丁目6-1

## 【小学校との連携】

### ・連携の様子

小学校5年生と近くの公園清掃  
小学校学習発表会・児童公開日の見学  
1・2年生との交流  
5年生との交流  
小学生が幼稚園に来て、一緒に遊び交流  
を図っている



### ・連携に至る経緯

近隣の小学校から依頼を受けて公園清掃  
を行っている  
毎年年長児が就学に向けて小学校訪問を  
行っている



### ・連携先との関係

就学する幼児が多い小学校  
近隣の小学校

## 【小学校訪問の様子】

算数の授業に参加し、「じんとりあそび」を  
している様子。

## 【成果】

- ・1学年上の子どもたちと交流した事で1年生の勉強の様子や生活を知ることが出来た。
- ・入学してからお世話係として関わる5年生と交流して、小学校に登校する安心感に繋がった。
- ・小学生と交流した事で、小学校をより身近に感じ、就学に向けての不安な気持ちが和らいで、期待へと繋がった。

## 【考察】

- ・交流の中で得られた情報の有効活用が出来た。
- ・相互理解が出来、円滑に幼小接続に必要な情報を知ることが出来た。



## 【公園清掃の様子】

5年生と年長児がペアになり、公園清掃を一緒に行っている様子。

# 札幌市立上野幌小学校

〒004-0022

厚別区厚別南7丁目9番1号

## 【幼稚園との連携】

### ・連携の様子

新さっぽろ幼稚園の先生方に、運動会や学習発表会等の行事にご来校いただき、児童に声掛けをしていただきました。

また、冬には園児が本校を訪問し、校舎の見学をしました。途中1年生の学習の様子を公開しました。さらに、1年生児童との交流活動を体育館で行いました。1年生は生活科「ようこそ ようちえんのおともだち」の活動の中で準備を進め、歌や踊りを発表しました。



### ・連携に至る経緯

校区に幼稚園がなく、特定の園との日常的な連携や交流ができにくかったのですが、平成26年夏の新さっぽろ幼稚園からの職員研修による交流をきっかけとして、園児の学校訪問が実現しました。今年度も、園児の学校訪問を実施しました。



【1年生の授業を公開】

### ・連携先との関係

幼稚園や保育園が近隣にないため、特定の園から大半の児童が入学するのではなく、複数の園から数名ずつ入学しています。この複数の園の中でも比較的多く、2～3割程度の入学児童があるのが、新さっぽろ幼稚園です。幼保小連携事業での交流では、こうしたつながりから、卒園園児のその後の様子や入学予定児童についての支援に関わっての情報を積極的に交流しています。



【1年生の発表を見る園児】

## 【成果】

- ・児童、職員共に、幼稚園とのつながりが意識される良い機会となりました。
- ・1年生児童による園児の歓迎は、入学を心待ちにする心の涵養や、縦のつながりを学ぶ良い契機となっています。

## 【考察】

- ・活動が定着しつつあり、今後も続けていきたいと思えます。
- ・スムーズな連携のために大変効果的な取組ができたと思えます。

## 【北光幼稚園との連携】

本校では、3月に北光幼稚園の年長園児と5年生が交流活動を行ってきた。次年度4月から本校の5年生は6年生として、北光幼稚園の年長は1年生の立場となるため、3月に共に活動することで、4月の見通しをもつことができるだけでなく、期待をもって進級できることをねらうためである。

しかし、例年1回の交流では、関わりに深まりが生まれず、本校も北光幼稚園もさらに交流することができないか検討しているところであった。そこで、今年度より、園児と児童が交流する時期を早くするだけでなく回数を3回に増やすことで、さらにねらいに迫ることができるように再構成し取り組んだ。

### ① 1回目の交流

5年生として半年が過ぎた10月、「半年後は6年生」「今の自分と6年生を比べて足りないもの」を考えることから始めた。その中で、「1年生をお世話することが心配。」と答える児童が何人かいることが分かり、北光幼稚園の様子を見に行く活動へとつなげていった。児童は、園児に対して「わがまま。」「やんちゃ。」などの印象があったが、園児と接することで、「自分のことをしっかり話すことができる。」「絵が上手。」など、新たな見方を獲得することができた。



【はじめての顔合わせ会】

### ② 2回目の交流

1回目の交流で園児のイメージがはっきりした5年生児童は、班ごとに交流の計画を立てて、園児と関わる活動を行った。1回目は全体で活動したが、2回目は数人のグループでの交流となった。数人のグループによって、個人と繰り返し関わるすることができた。「名前を覚えた。」「～ちゃんは、絵を描くことが好きだ。」など、一人一人の特性をつかむことにつながった。3回目の交流は、児童が園児の思いを引き出すことをねらいとして、学校のことを教え、園児がしたいことに取り組みせる活動を予定している。

## 【成果】

- ・園と小学校が連携を密にすることで、教師が園児と児童の育ちを共有しながら指導にあたることができた。
- ・交流の回数を増やすことで、「お世話をしてあげたい。」から、「園児のために見守っていく。」と、児童が園児に対する接し方を変えることができた。また、園児は小学校に進学する期待を高めることにつながった。

## 【考察】

- ・園児、児童に次年度の期待をもたせることができたのは、事前に指導者同士がそれぞれのねらいを共有し、進め方、必要な準備など連絡を密にしたからである。今年度は年度中に連絡調整をしたが、年度当初に行うことで、さらに充実した交流になると考える。

# 札幌市立上野幌東小学校

〒004-0032

厚別区上野幌2条4丁目5-1

## 【校区内の公園清掃】

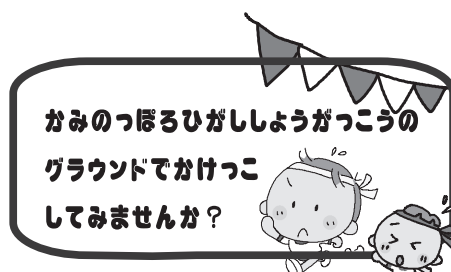
本校5年生は、毎年春と秋の2回、新さっぽろ幼稚園の園児と一緒に校区内の公園清掃を行っている。公園のゴミや枯葉を集めるだけでなく、5年生が簡単な遊びを企画し、園児と触れ合う時間も設定した。5年生は、園児と手をつなぎ鬼ごっこをしたり、一緒に枯葉を集めたりすることを通して、最高学年としての自分たちの姿をイメージしながら期待に胸を膨らませていた。また、小学校生活に不安を抱く園児たちも、優しいお兄さん、お姉さんと接することで、小学校生活への安心感をもつことができた。



【校区内の公園を一緒に清掃をしている様子】

## 【運動会】

平成28年度の新しい取組として、「未就学児によるかけっこ」を運動会で実施した。次年度に本校に入学する幼児に、参加を呼び掛けたところ、50人弱の子どもたちの参加があった。PTA会長の合図で、30メートルのコースを一生懸命走る幼稚園児や保育園児に、全校児童や保護者の方からも歓声や拍手が上がり、大盛り上がりとなった。児童や保護者や地域の方々が一体となって応援することで、幼児の入学への期待感と安心感を高めることができた。完走後に、参加賞のワッペンをみんな嬉しそうに持ち帰り、笑顔が溢れるひと時となった。



【未就学児による運動会のかけっこの様子】

## 【学習発表会への招待】

11月に行われた学習発表会に、新さっぽろ幼稚園の年長児70名と、まごころ保育園の年長児13名を招待した。新さっぽろ幼稚園の園児には、3年生の劇、まごころ保育園の園児には、1年生の劇を観覧してもらった。大きなステージで堂々と演じたり、歌ったりする小学生を間近で見て、園児たちは「お兄さん、お姉さん、上手だな。」と憧れの気持ちをもってくれたようだ。また、本校児童も、園児たちの真剣なまなざしに、いつも以上に張り切って演じている雰囲気が見られた。



【劇を観覧する園児の様子】

## 【成果と考察】

- ・小学校の児童は交流を通して、自分が上級生として新1年生を支えていきたいという自覚をもつことができた。小学校生活に不安をもつ園児も、校内の様子や優しい上級生が待っているということを知り、入学への期待を大いに高めることができた。
- ・校区内清掃、学習発表会や生活科の学習への参加などは継続的に行ってきたので、学校の取組として定着した。職員同士が顔を合わせる機会が増え、新1年生の入学をよりスムーズにするための協力体制が生まれた。

# 札幌市立厚別東小学校

〒004-0004

厚別区厚別東4条8丁目1-1

## 【厚別東小学校の連携】

本校では長年にわたり、厚別中学校との連携を図ってきた。その中で小中の連携だけでなく、幼稚園・保育園との連携の必要性が校内で語られるようになり、2014年から近隣で本校にも多くの卒園児が登校している「あおば幼稚園」「もえぎ保育園」との交流を始めた。

毎年2月上旬に本校の5年生がそれぞれの園を訪問し、下旬には学校へ招待する形で交流を行っている。



【仲良くじゃんけん列車を楽しむ子どもたち】

## 【成果】

5年生の子どもたちは、新年度、交流した園児たち1年生と6年生で再会することとなる。園児にとっては、遊んでくれたお兄さんお姉さんがいる学校ということで入学に対する不安を幾分軽減することができているようである。また、5年生にとっても、新しく入学してくる子どもたちの様子を事前に知ることによって、新年度に向けて様々な準備をすることができる。今年度は5年生が、入学してくる幼児のために学校の紹介動画を作成し、見せようと計画しているところである。



【学校紹介動画を制作する子どもたち】

## 【考察】

これまで、交流を継続することで、新1年生には入学に対する安心感を、6年生にとっては1年生を支えていこうとする自覚を育むことができている。今年度、学校へ招待した時に学校紹介動画を見せるという新たな取組が始まることから、その成果についてしっかりと次年度へつなげていきたいと考える。

一方で、2月という交流時期については天候不順やインフルエンザの流行などで計画通り実施できないこともあったので、適切な時期について検討していく必要がある。



# 札幌市立もみじの丘小学校

〒004-0011

厚別区もみじ台東4丁目5-1

## 【幼稚園・保育園との連携】

### ○交流を実施した園

もみじ台南保育園、協働保育園、  
もみじ台幼稚園、みづほ幼稚園、  
認定こども園いちい幼稚園、  
もみじ台北保育園

- ・ 8月～各園との打合せ
- ・ 9月～総合的な学習の時間「未来の1年生と一緒に！」（全体オリエンテーション、交流計画、リハーサル等）
- ・ 9月27日、28日～第1回交流会（訪問交流）
- ・ 10月～第1回交流会の振り返り
- ・ 12月～第2回交流会に向けての取組・準備
- ・ 1月25日、26日～第2回交流会（招待交流）
- ・ 2月～第2回交流会の振り返り



【園児が興味をもっている本を  
5年生が読み聞かせをしている】

## 【成果】

- ・ 子どもが園児の目線に合わせて話すよう気を付けたり、困っている園児がいたら声を掛けたりするなど、相手の立場になって考えながら交流することができた。
- ・ 園児に馴染みのある遊びを計画し、年長児に対して伝わるよう動きながらルールを説明した。説明を丁寧にしたことで、園児も安心して活動することができ、楽しく遊ぶことができた。
- ・ 主になって進行する子どもたちと、それをサポートする子どもたちが協力し合って、交流を実施することができた。
- ・ 2回の時期に分けて交流することで、園児の側にも見通しがもて、より期待が高まっている様子が見られる。幼保小連携推進協議会の場でも、そのような報告をいただいている。



【園児の目線になって  
5年生が話をしている】

## 【考察】

5年生児童にとっては、新6年生に向けた心構えや責任感が、年長児にとっては就学への安心感や期待感がさらに高まるなど、双方に成果が見られた。4月以降の新1年生と新6年生による交流がより充実したものになるのではないかと期待している。